

インターバンクの声（2014 年 8 月 4 日）

ドル円が103円台を一気に駆けあがるような反応を期待した方には拍子抜けとなった米雇用統計結果だったが、イエレン議長や数人の連邦公開市場委員会（FOMC）メンバーはやれやれと思っていたに違いない。非農業部門雇用者数が市場の予想を下回ったとは言え、20万人を切るような弱いところに落ち込んだわけではないが、失業率が0.1ポイント悪化したり一時間当たりの平均賃金が伸びなかったりしたことが失望につながったようだ。雇用統計の1時間半後に発表された7月ISM製造業景況指数が事前予想を上回り、ドルが一旦持ち直しかける場面もあったが、欧州株価の下落に続いて米株価も下落し始めたことで、ストップを巻き込んだドル売りが102円60銭で耐えていた相場をさらに押し下げた。それでもニューヨーク市場の午後には株価も下げ幅を縮小したり、米10年国債利回りも2.50%前後で下げ止まっていたりしたこともあり、ドル円も安値からは少し回復する動きとなった。雇用統計が新たな相場への進展を促さなかったことで、再び102円をコアにレンジ相場が続くことになりそうな雰囲気だが、数字にばらつきが見られる中国の経済指標やウクライナ、イスラエルなどの地政学的リスクは残っており、のんびりするわけにはいかない相場が続くことになりそうだ。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。